



成果指標				
成果指標	交通安全リーフレット、新入生交通安全用品配付、県民大会参加者の実数			
指標設定の考え方	交通安全思想の普及の度合いとして、啓発に係る実数を測定する。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目 標	2430	2000	0	0
実 績	2397	1987	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	5	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	子どもから高齢者までの広い年齢層における交通安全活動や交通安全意識の普及啓発活動を実施することができた。今後も本事業を継続実施し、日常的に事業推進する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	A
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	環境が変化する入学時にグッズ等の配布を行うことで、交通安全の啓発にも繋がると考える。交通安全は個々の意識によるところが大きいため、今後も事業を継続し啓発活動等による交通安全意識の普及啓発を図る必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	小中高校生には身近な自転車の交通安全対策を強化するとともに、高齢者には免許証の自主返納を促す政策を推進する必要がある。

行政評価委員会の答申

外部評価  
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。